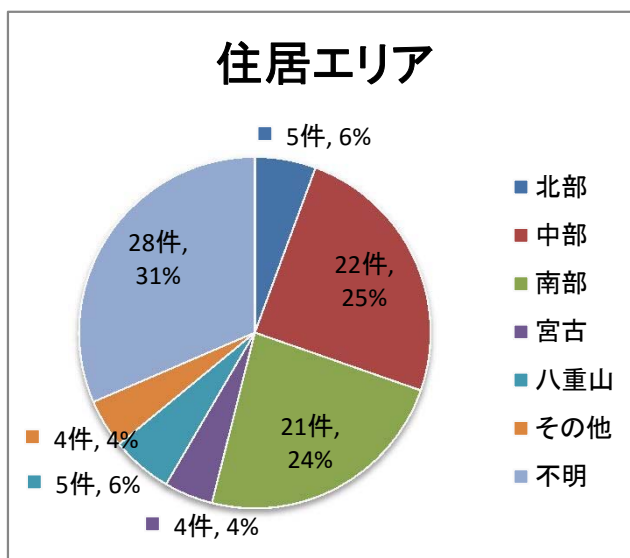
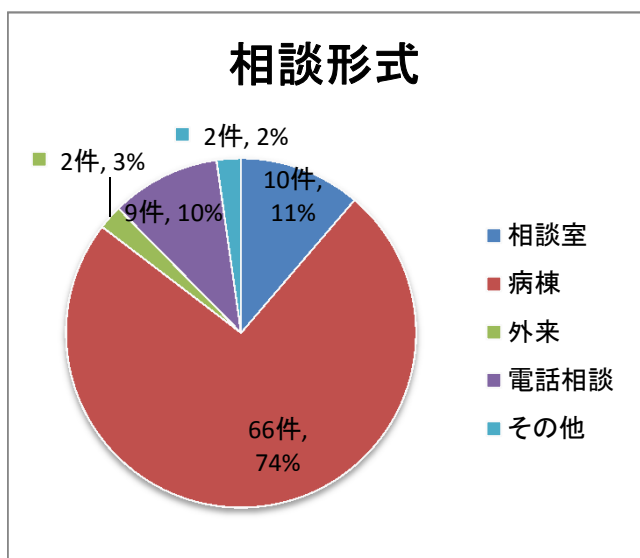
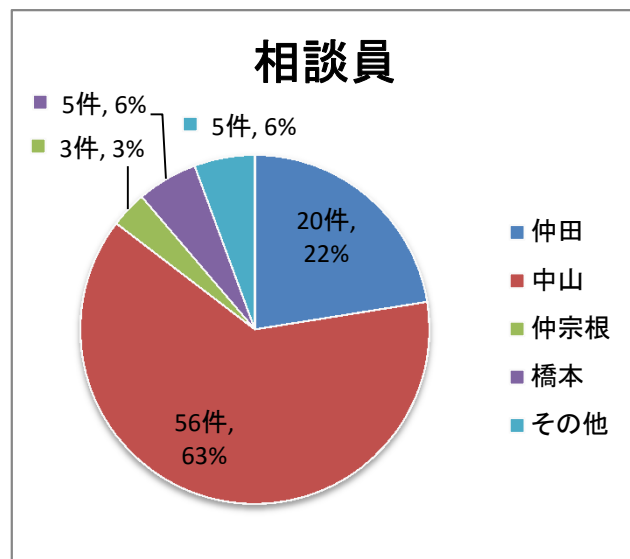
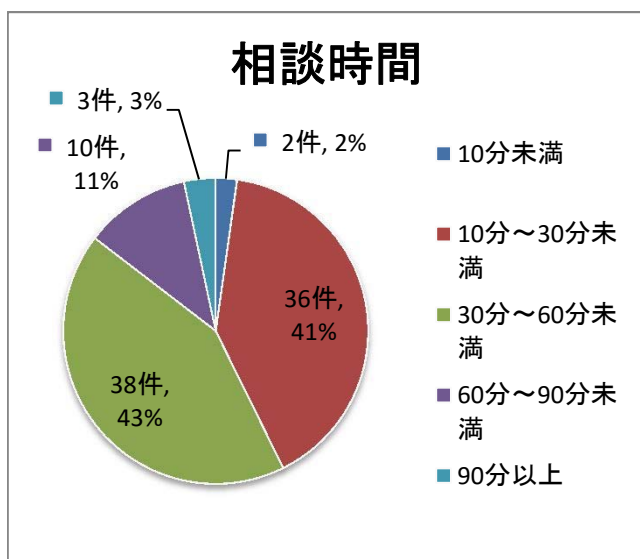


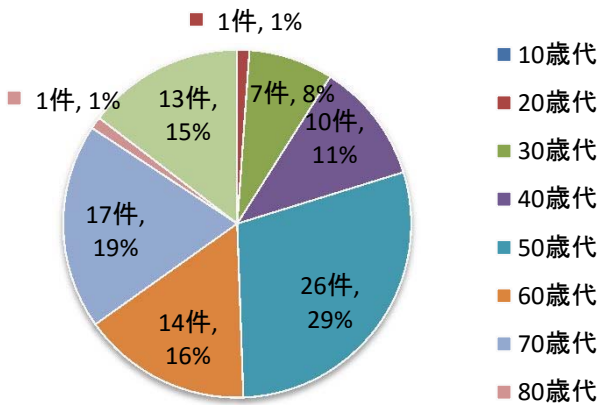
がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

- 調査対象期間 平成28年1月1日～平成28年3月31日
- 調査件数 89 件

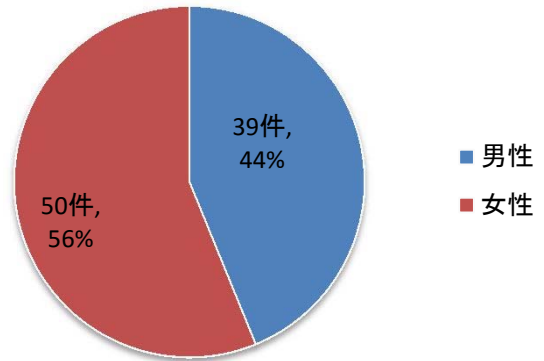
相談月	件数
1月	27
2月	21
3月	41
合計	89



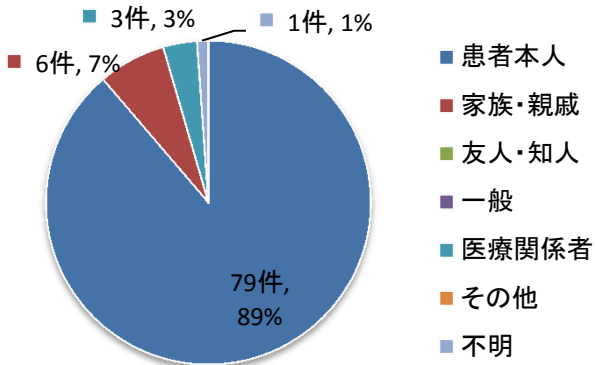
相談者の年代



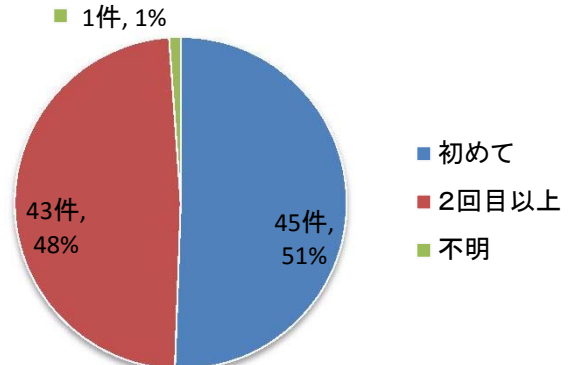
相談者の性別



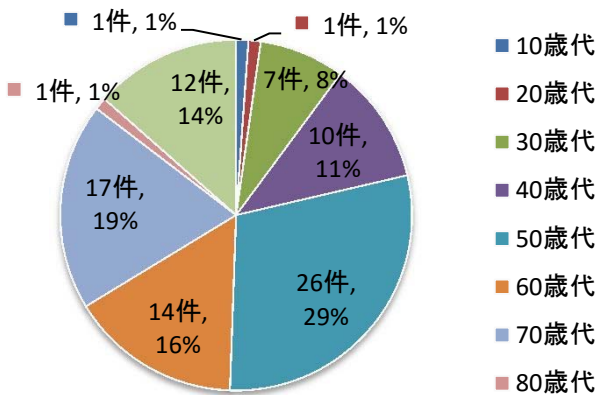
相談者のカテゴリー



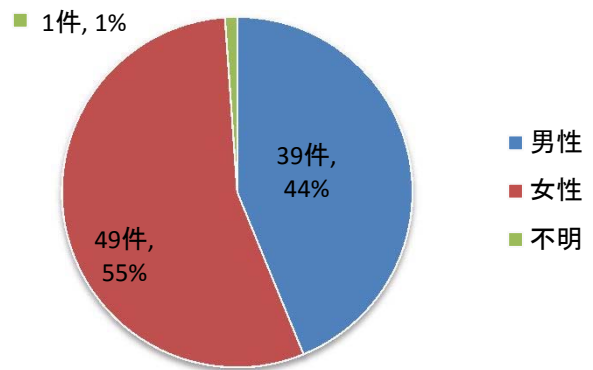
相談者の利用回数



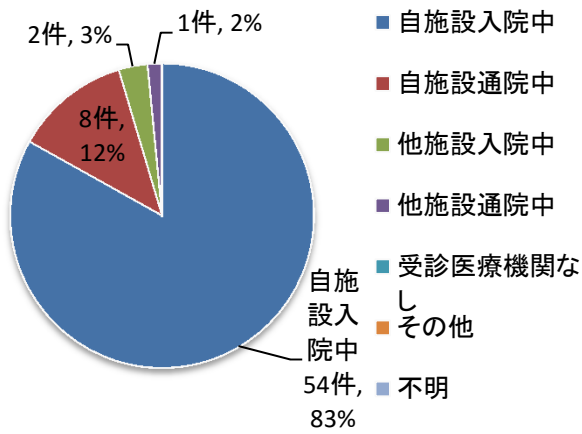
患者本人の年代



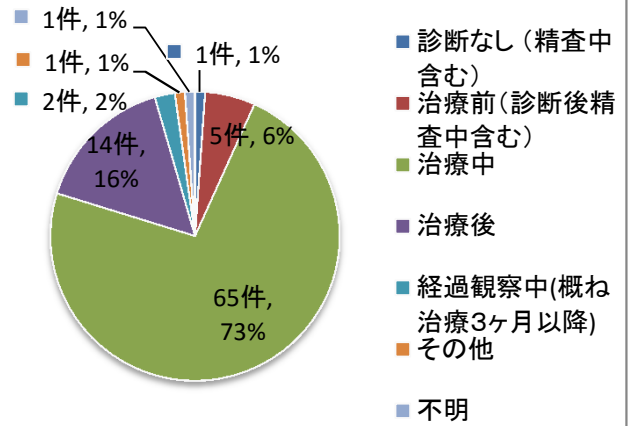
患者本人の性別



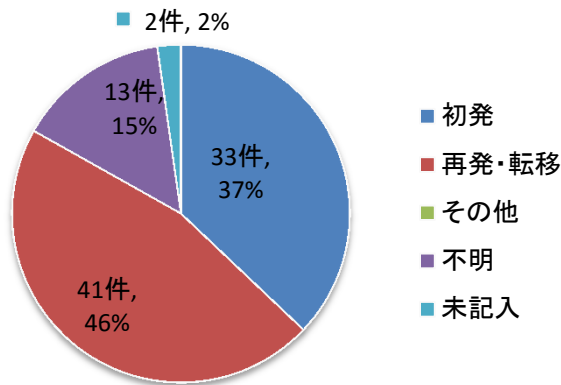
受診状況



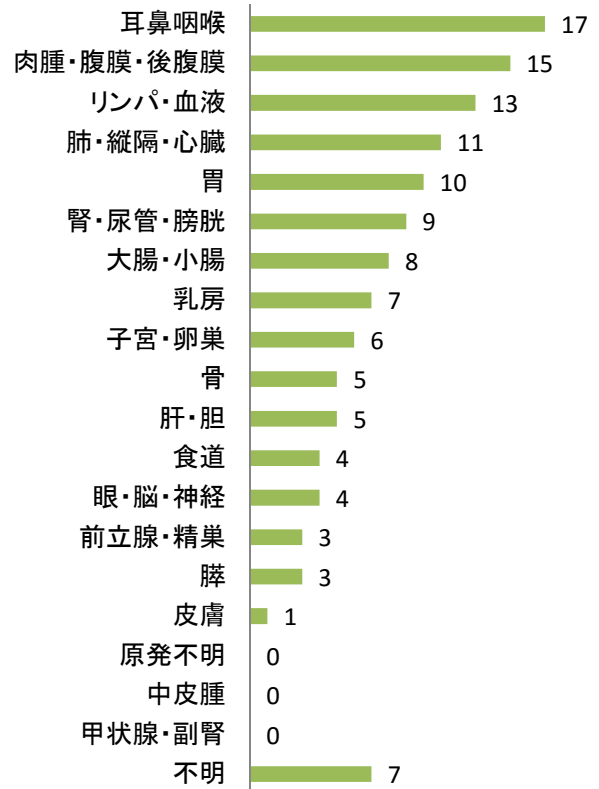
現在の治療状況



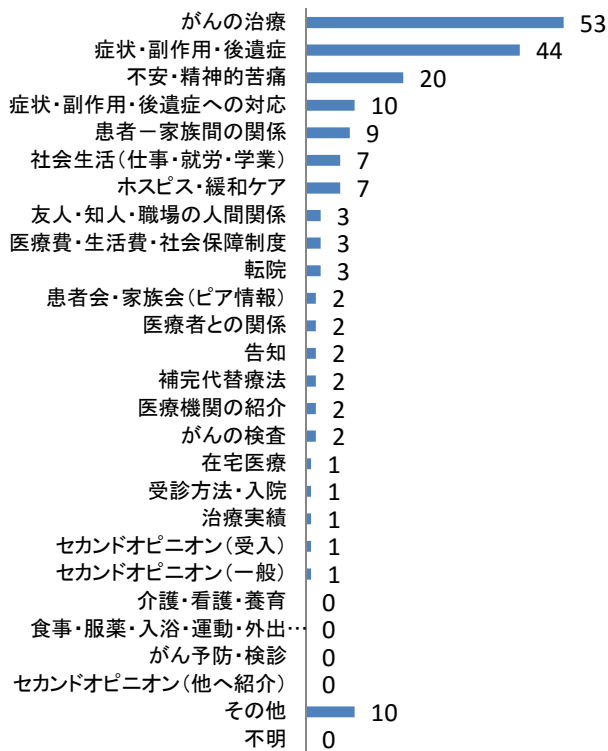
がんの状況



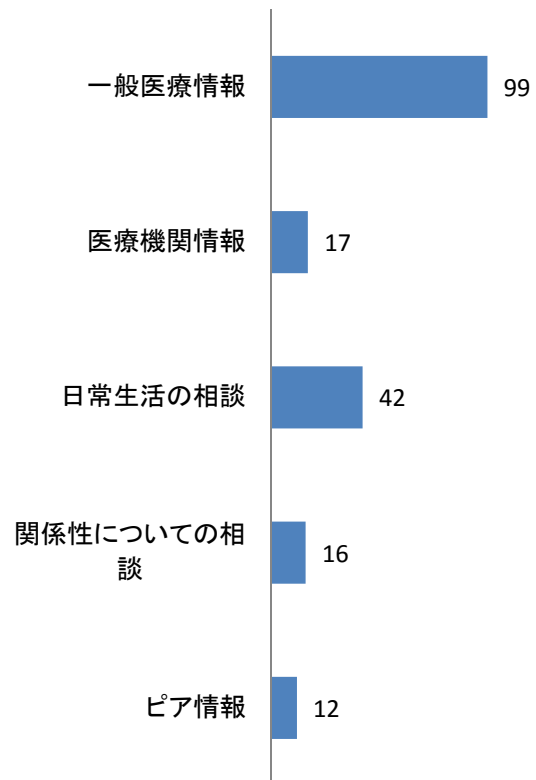
がんの部位



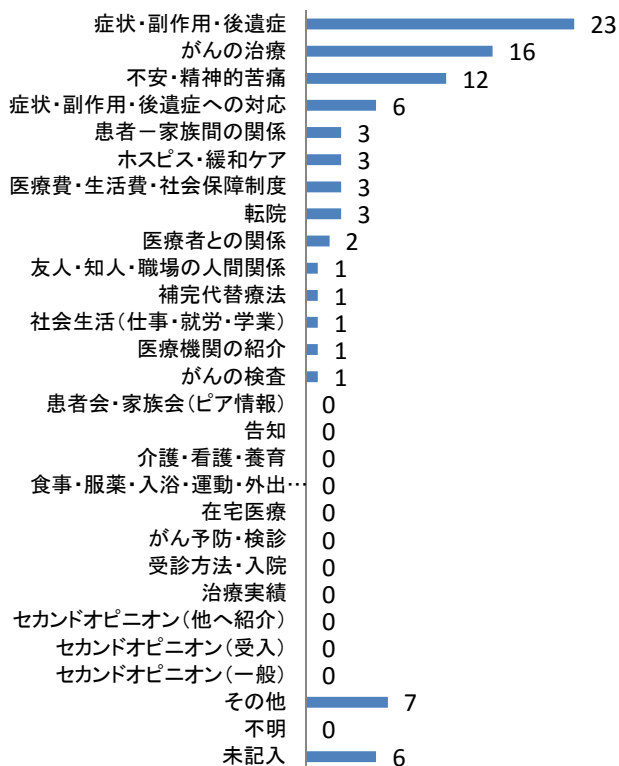
相談内容 (実施したものすべて)



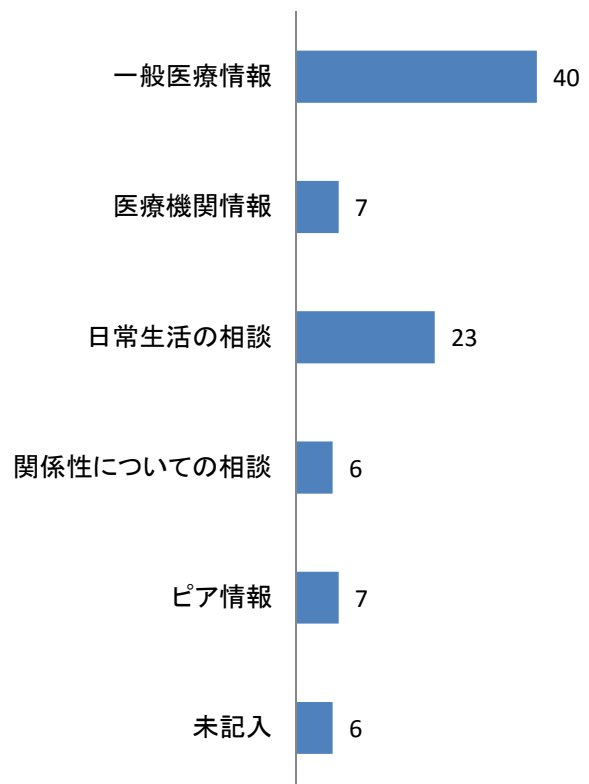
相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



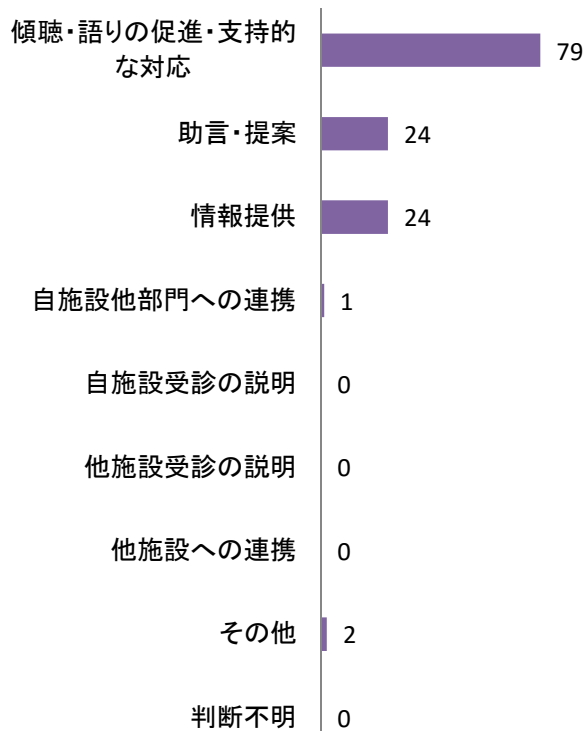
相談内容 (最も比重の高いもの)



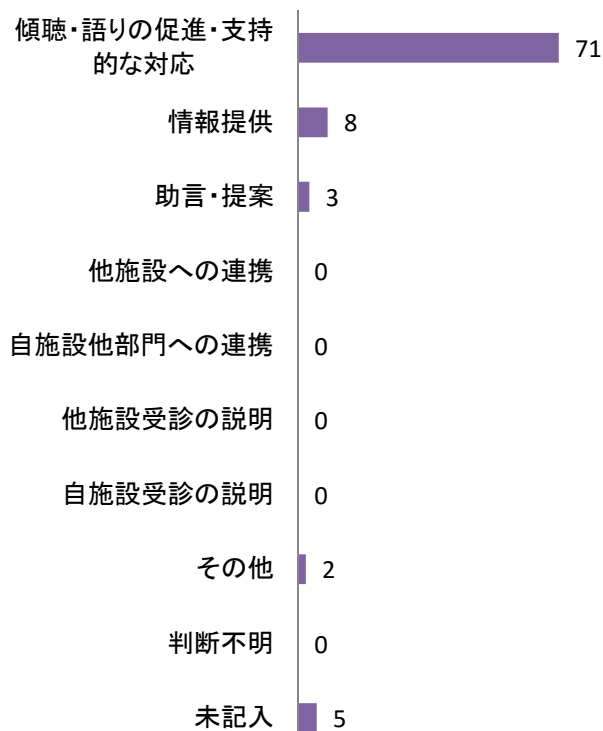
相談内容 (最も比重の高いもの・大項目別)



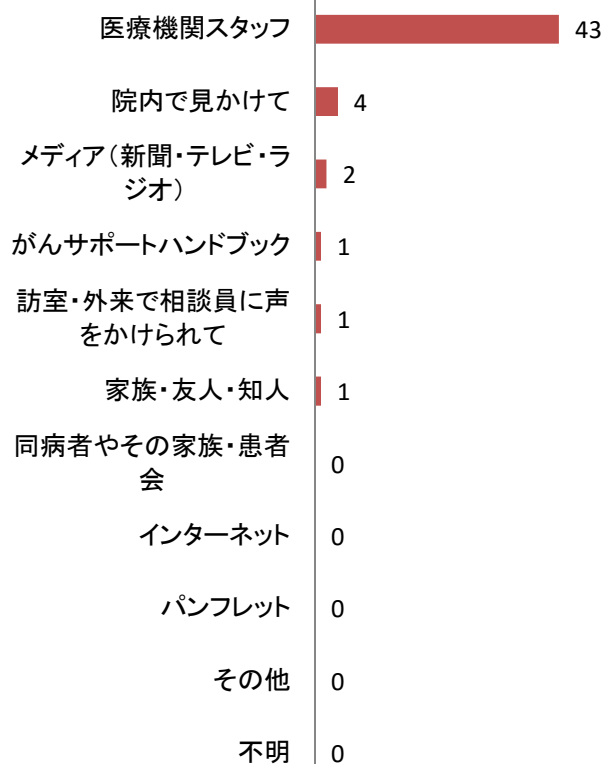
対応内容 (実施したもののすべて)



対応内容 (最も比重の高いもの)



認知経路



平成27年度
沖縄県がん患者等支援事業主催

がんピアキャラバンin宮古島 実施報告書

実施日：平成28年2月18日（木）

○ イベント趣旨

(1) 名称 がん相談できる島づくり がんピアキャラバン

(2) 「がんピアキャラバン」とは

「がん相談等がん支援を活用する県民の増」を推進するために、沖縄県全域に出向き、がん患者会や医療職、行政職等の地域関係者と協働で、イベントを通じてがん患者支援を行う。主たる内容はがんピアサポーターや医療者によるがん相談とし、支援体制の普及啓発活動、がんに関する適切な情報提供も同時に行う。

(3) 目的

・がん患者や家族の不安軽減

がんを経験した当事者同士ががんに対する不安や悩み・気持ちを分かち合い、必要とする情報を交換し合うことで（ピアサポート）病気に対する不安軽減につなげる。

・がん相談に関する自主的・自立的活動の推進

がんピアサポートの活動機会が少ない地域等へ、がん相談に対応できる相談員をアドバイザーとして派遣し、地域のがん患者等関係者（ピアサポーター）にピアサポート活動の機会を与えることで、ピアサポーターとしての資質を高め、ゆくゆくは自主的・自立的にピアサポートが行える体制をつくる。

○ 実施概要

- (1) 名称 がん相談できる島づくり がんピアキャラバンin宮古島
- (2) 日時 平成28年2月18日(木)10時30分～17時
- (3) 場所 沖縄県立宮古病院
- (4) スタッフ 責任者1名、事務員2名、アドバイザー2名
- (5) 内容 がんサロン、がん相談、ピアサポート展
～プログラム～
- ①「がんピアサポート展」
地域統括相談支援センターの活動概要や相談事例をパネル展示
でご紹介します。
- ②「ピアサポーターのためのピアサロン」
宮古島で活動するピアサポーターさんを対象としたピアサロン。
琉大病院内の県地域統括相談支援センターの相談員と一緒に、
ピアサポートについておしゃべりをしましょう。
- ③「1日限りの個室がんサロン」
がん患者さん、ご家族等のための個室がんサロン(予約制)
県地域統括相談支援センターの相談員が対応します。
- (6) 入場料 無料
- (7) 対象 がん診療・治療を受けておられる患者様・ご家族・
関心のある地域の方々
- (8) 主催 沖縄県がん患者等支援事業
共催 沖縄県地域統括相談支援センター

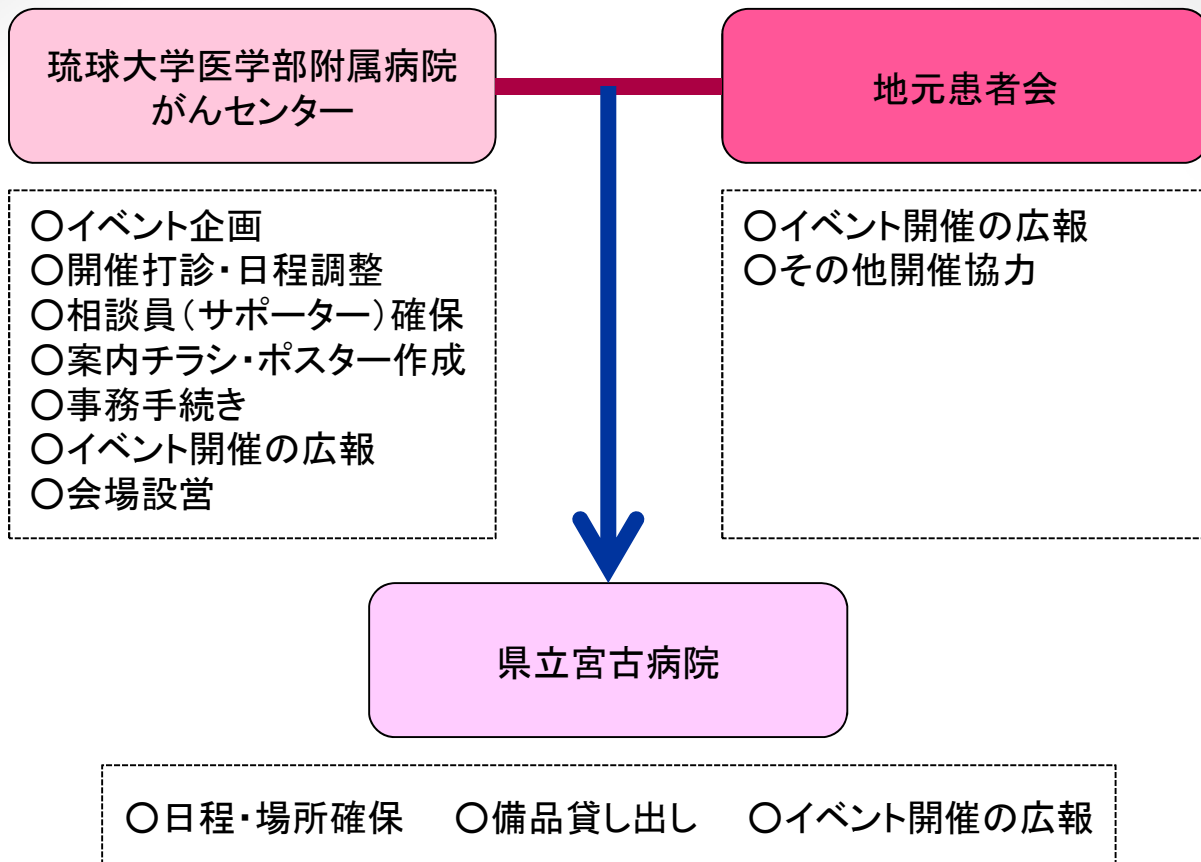
○ スタッフ名簿

名前	所属	担当
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 沖縄県地域統括相談支援センター センター長	責任者 サロン閉会挨拶 協議会議長
仲田 ひろ子	沖縄県地域統括相談支援センター 相談員	ファシリテーター 相談業務
中山 富美	沖縄県地域統括相談支援センター 相談員	ファシリテーター 相談業務
安里 君代	琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県地域統括相談支援センター 事務	ピアサポート展 責任者 広報係・案内 係・受付
又吉 未央	琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県地がん患者等支援事業 事務	事務責任者 カメラ係・IC係・ 受付

○ タイムスケジュール

時刻	タスク	担当
09:50	県立宮古病院着	
10:30	ピアサポート展	設営：安里・又吉
10:30	ピアサポーターのためのピアサロン 2階 眼科診察室	ファシリテーター： 仲田相談員・中山相談員・増田先生
12:00	昼食	
13:00	1日限りの個室がんサロン 2階 皮膚科診察室	相談業務：仲田相談員・中山相談員 受付：安里・又吉
13:30	患者会向け協議会事前MTG	進行：増田先生 事務：又吉
14:00	宮古医療圏がん医療連携協議会	進行：増田先生 事務：又吉
16:30	1日限りの個室がんサロン 最終受付	相談業務：仲田相談員・中山相談員 受付：安里・又吉
17:00	撤去作業	全員
17:30	県立宮古病院発	

○ 地域関係者との協働（県立宮古病院／患者会）



○ タイムライン

09：10 宮古空港着

宮古病院へ向かいます。

09：50 沖縄県立宮古病院着

増田先生：院長秘書の塩川さん取り次ぎで、上原病院長、小禄副看護部長にご挨拶をお願いします。

又吉：総合受付の方に、キャラバンにお越しの方が見えたら、各会場にご案内するよう依頼をします。

10：00 会場設営

がんピアサポート展は、パーテーションを借用して1階玄関付近にパネルを展示します。ピアサポーターのためのピアサロンは2階眼科診察室に椅子4、5脚を円にして並べて2つのグループを作ります。

安里さん、又吉：がんピアサポート展（1階玄関付近）

仲田さん、中山さん、増田先生：ピアサロン（2階眼科診察室）

10：15 ピアサロン会場案内

仲田さん、中山さん：サロンにお越しの方をご案内できるよう診察室付近にいてください。

安里さん、又吉：がんピアサポート展付近で、サロンにお越しの方をご案内します。

10：20 がんピアサポート展

準備が整い次第、1階玄関付近でサポート展を開始します。

10：30 ピアサポーターのためのピアサロン

2階眼科診察室でサロンを開始します。

仲田さん、中山さん：ファシリテーターをお願いします。

増田先生：責任者として会場内をお願いします。閉会挨拶と、参加人数によってはファシリテーターをお願いします。

又吉：カメラ担当、IC担当、事務責任者として会場内にいます。

安里さん：受付係として、開始30分程度は診察室前で待機をお願いします。

12：00 昼食（時間の都合上、お弁当を予定）

又吉：お弁当手配

12：45 個室がんサロン会場設営

又吉：診察室内を整えます。

○ タイムライン

12:50 個室がんサロン会場案内

仲田さん、中山さん：受付係として診察室前に待機をお願いします。

13:00 1日限りの個室がんサロン

2階皮膚科診察室に個室サロンを開始します。仲田さんと中山さんはお二人でご相談のうえ、相談員と受付係を担当してください。相談対応については、通常通りお話しをお聞きし、終わったあとに相談シートに記入してください。用意しているミニブックやチラシなどの情報を渡してください。

仲田さん、中山さん：相談員として相談対応をお願いします。

仲田さん、中山さん：受付係として診察室前に待機をお願いします。

安里さん：がんピアサポート展の来場者にサロン開催のお知らせをお願いします。相談希望者がいた場合は、メールまたは直接2階に上がり、仲田さん、中山さんにお知らせしてください。

又吉：サロン入口で受付します。

13:30 協議会事前ミーティング

増田先生、又吉：院内講堂にて、患者会の方と30分間程度打ち合わせをします。

14:00 宮古医療圏がん医療連携協議会

増田先生：議長をお願いします。

又吉：カメラ担当、IC担当、事務責任者として会場内にいます。

16:30 1日限りの個室がんサロン 最終受付

仲田さん、中山さん：当日の受付は16時半を最終とし、16時半を待つて片付けに入ってください。

16:30 ピアサポート展撤去

安里さん、又吉：展示物の撤去ならびに備品の返却を行います。

17:00 沖縄県立宮古病院発

イベント終了です。宮古空港に向かいます。

18:55 宮古空港発

がん相談できる島づくり
がんピアキャラバン in 宮古島

家族はなにができるだろう？
話を聞いてほしいけど、身近な人には話づらい。
わたしと同じ思いの人はいるの？

1日限りの  個室がんサロン

本日開催
2016 **2/18** (木)

プライバシー厳守
沖縄県立宮古病院
皮膚科診察室(2階) 13:00-17:00
外来休診日の診察室でお話しをうかがいます

事前予約制・当日受付可・申込先着順
当日の受付は空きがある場合に限らせていただきます

ご予約・お問合せ **098-942-3407**
受付時間 平日9:00-17:00

“きもちがわかる、
経験があります”

琉大病院で活動するがん相談員が
1日だけ、宮古病院におじゃまします。
わたしたちがん相談員も、がんを経験しました。
不安やしんばいごとを一緒に考え、
こころを整理してみませんか。まずはご予約のお電話をどうぞ。

* 琉球大学医学部附属病院内の沖縄県地域統括相談支援センターにお電話につながります
* 個室がんサロンは宮古病院の皮膚科診察室で行います

同日開催

「ピアサポーターのためのピアサロン」
がんピアサポート活動について、みんなでお話ししましょう。予約不要。直接お越しください。
10:30-12:00 眼科診察室(2階)

「がんピアサポート展」
ピアサポーターが相談員を務める沖縄県地域統括相談支援センターの活動や相談事例をご紹介します。
10:30-17:00 院内にてパネル展示

主催:琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県がん患者等支援事業 共催:沖縄県地域統括相談支援センター
後援:沖縄県立宮古病院 協力:離島のがん患者支援を考える「ゆうかぎの会」/「まんま宮古」/「日本オストミー協会宮古支部」

○ 事前告知 (宮古毎日新聞2016年2月18日掲載)

まいにち伝言板

ひろば

・きよつこの催し・お知らせ
・10円玉コーナーほか

〈受付〉
ワイド企画
月～金曜日 9:00～17:00
☎ 72-6822
FAX 72-3164 (24時間)
宮古毎日新聞社
土・日曜日 9:00～17:00
☎ 72-2343
FAX 72-3733 (24時間)

きよつこの催し

- 宮古島市
 - 健康体操講座 (午前10時～市中央公民館)
 - ▽1日限りの個室がんサロン (午後1時～宮古病院2階皮膚科診療室 問い合わせ せり琉大病院内沖縄県地域統括相談支援センター) (080-942-3407)
- 平良地区
 - ▽荷川取生きいき教室 (午前10時～荷川取公民館)
 - ▽西郷生いきき教室 (吉田・西郷・長南・上区 午前10時～社協城辺支所)
 - ▽伊良部地区 (伊良部生きいき教室 (午前9時30分～長浜多目的施設))
- 下地地区
 - ▽夢の光号巡回 (午後1時～来間小)
 - ▽上野生きいき教室 (午前10時～上野老福センター)
- 多良間村
 - ▽心しゃぬふ学校 (午後1時30分～老人センター)
 - ▽わんぱく塾 (午後4時10分～村立図書館)

お知らせ

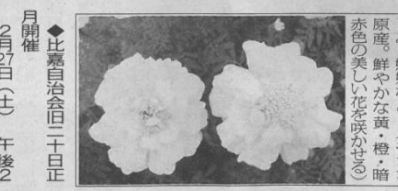
- 平和憲法制定70周年宮古島市民学習会日程変更
 - 2月19日(金) 午後6時30分～20日(土) 午後5時
 - 市中央公民館視聴覚室 (憲法と地方自治について) 平和な島へ 自衛隊基地問題を見つめながら。講師は自治体問題研究所主任 研究員・池上洋通氏。誰で
- サトウキビ春植え用おまひ立群防除農薬配布
 - 公民館受け取り 城辺地区は2月20日(土)まで 伊良部地区 (3月5日)まで JAおきなわ各地区支店終了。問い合わせ 市農政課・前里 (76-6840) まで。

こよみ

【18日・木】◎血栓予防月間 (-19日) ◎アレルギー週間 (-23日) ◎「はたちの献血」キャンペーン ◎省エネルギー月間 ◎北方領土返還運動全国強調月間 ◎海外移住推進月間 ◎薬物乱用事犯取締強化月間 ◎職場における健康診断推進運動 ◎相続登記はお済みですか月間 (-29日) ◎消費税の確定申告 (-3月31日) ◎建設産業の労働時間短縮推進キャンペーン (-4月30日)

- 2月20日(土) 正午開場 0時30分受付 1時開演 5時閉場 よしもとの島パニニンマ イタリアの精神保健改革の最初の20年を描いた映画。入場無料。定員100人 (先着20人に資料配布。申し込みはEメール nuyakajima_mentalhealth@gmail.com) まで。問い合わせ せりあいづら宮古・南風原 (72-6808) 090-4999-7973。主催 宮古島地域精神医療保険福祉研究会。
- ◆「宮古の先達」5人の学識者たちの業績・知的遺産とその継承」に関するシンポジウム
 - 2月20日(土) 午後1時～5時 市勤く女性の大ホール 内容は慶世村恒任氏、稲村(旧姓上運天)賢敷氏、金井喜久子氏、砂川正亮氏、工藤(旧姓豊見山)恵栄氏5人の業績・知的遺産とその継承。宮古の今後の可能性をお話し。関連してのシンポジウム。パネリストは仲宗根将二氏、福本恵子氏、伊志濱亮氏、新城悦子氏、沢砥英正氏、ゴッパネーターは琉大名誉教授・垣花博潤氏。渡入
- ◆二重越し橋通り会清掃と懇親会
 - 2月21日(日) 午後4時～下里敏雄宅前集合。二重越し橋通りのランタナの剪定と掃除、終了後伊山産業駐車場までワープ。二大懇親会。問い合わせ 同通り会会長・伊山 (72-8805)。
- ◆島のコロナ健康講座第23回「アルコールについて」
 - 2月24日(水) 午後6時～7時 宮古病院1階外来待合室。講師は宮古病院精神科・三塚智彦氏。申し込み不要。誰でも参加可。受講料・駐車料無料。問い合わせ せり宮古病院地域連携室 (72-3151) 市健康増進課 (73-1078)。
- ◆宮古工業高校制服指定店募集説明会
 - 2月26日(金) 午後3時～同校小会議室。時間厳守の上参加ください。問い合わせ 同校・山崎 (72-3186)。

- ◆「宮古の先達」5人の学識者たちの業績・知的遺産とその継承」に関するシンポジウム
 - 2月20日(土) 午後1時～5時 市勤く女性の大ホール 内容は慶世村恒任氏、稲村(旧姓上運天)賢敷氏、金井喜久子氏、砂川正亮氏、工藤(旧姓豊見山)恵栄氏5人の業績・知的遺産とその継承。宮古の今後の可能性をお話し。関連してのシンポジウム。パネリストは仲宗根将二氏、福本恵子氏、伊志濱亮氏、新城悦子氏、沢砥英正氏、ゴッパネーターは琉大名誉教授・垣花博潤氏。渡入
- ◆税理士記念日「無料税金相談会」
 - 2月24日(水) 午前10時～午後4時 琉銀宮古支店2階会議室。23日(火)の税理士記念日にちなんで実施。税理士の上原勇幸氏、砂川亜紀氏が税に関する相談に対応します。問い合わせ 沖縄税理士会宮古支部・上原 (72-0915)。



マリーゴールド (別名万寿菊。花言葉は信頼・悲しみ・嫉妬など)。メキシコ原産。鮮やかな黄・橙・暗赤色の美しい花を咲かせる。

◆比嘉自治会回 二十日 月開催
2月27日(土) 午後2

○ 当日の開催風景 がんピアサポート展

沖縄県地域統括相談支援センターとの協働で、宮古病院正面玄関にてがんピアサポート展を実施しました。会場設営には地元患者会の協力がありました。

▼宮古病院の正面玄関入口で開催したピアサポート展



▼興味深げな地域の方々。パネル設営には地元患者会の協力があった。



○ 当日の開催風景 ピアサポーターのためのピアサロン

宮古島でがんピアサポート活動を行っているピアサポーターを対象に、ピアサポーターのためのピアサロンを開催しました。参加者は5名でした。会場設営には、宮古病院の小祿副看護部長、佐渡山地域連携室室長の協力がありました。

▼宮古病院の眼科診察室を借りて「ピアサポーターのためのピアサロン」を開催



▼関心のあるテーマを選ぶグループワークの様子（写真左）

▼宮古島で患者支援をおこなっているサポーターの皆さん（写真右）



○ ピアサポーターのためのピアサロン 進行表

所要時間	活動の内容	留意点
開始 20分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ5名程度にグループ分けをする。 ・グループ内で各自名前と座右の銘（または好きな言葉）を述べて自己紹介する。 ・ピアサポーターの心得を全員に配り、読み合わせをする。 ・ワークシートと名札を配る。 ・アンケートを配る。 ・テーマ決めと名札記入のために筆記用具をまわす。 ・ワークシートからテーマを2つ選ぶ。名札に名前（または呼び名）を書く。（5分程度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介は手短にしてもらう。 ・ピアサポーターの心得は、アドバイザーが読み上げる。 ・ワークシートからテーマを2つ選んでもらう。 ・名札に名前を書いてもらう。
展開 50分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで選んだテーマをチーム内で一斉に出してもらう。 ・ジャンル「ピアサポーター」から、テーマが多い順に話し合いを行う。 ・「個人」から、テーマが多い順に話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマは「ピアサポーター」「個人」それぞれ2つのジャンルから1つずつ選んでもらう。 ・「ピアサポーター」から話し合いを始める。 ・なるべく全員が会話に参加できると良い。 ・県地域統括での活動内容も紹介しつつ進めてください。
まとめ 10分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古病院関係者のコメント ・増田先生から終わりの挨拶 ・アンケート記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古病院から医療者の出席があれば感想などをコメントしてもらう。

○ ピアサポーターのためのピアサロン 議事要旨

1 日時 平成28年2月18日(木) 10:30~12:00

2 場所 沖縄県立宮古病院 2階眼科診察室

3 出席者

(患者会)まんま宮古、ゆうかぎの会、ぴあナースの会宮古 5名

(沖縄県地域統括相談支援センター)相談員 1名

(琉球大学医学部附属病院がんセンター)責任者、事務 2名

4 内容

県地域統括相談支援センターの相談員を交え、宮古島で活動するピアサポーターを対象としたピアサロンを実施しました。「ピアサポーター」「個人」、それぞれの立場から関心があるテーマを選ぶ簡単なグループワークのあとは、がん相談の質や離島でのピアサポート活動について活発な意見が出されるなど、有意義なピアサロンとなりました。

(議事要旨)

【がん相談の質】

- ・雑談で終わっていないか。相談者が望む相談に乗れたか、悩みが解決できたのか、わからない。
- ・たわいもないおしゃべりを楽しみにしている相談者もいる。
- ・医療や制度に関する相談が来た場合は、がん相談支援センターを紹介しているが、どの窓口を案内すべきか情報を持っていたい。
- ・相談者がなにを望んでいるかわかるピアサポーターになりたい。

(議事要旨)

【離島でのピアサポート活動】

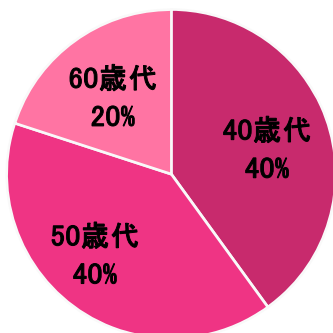
- ・活動拠点が無い。自宅でピアサポートをしている。喫茶店では相談者のプライバシーは守れない。
- ・個人の携帯番号を患者会の連絡先として案内している。活動時間は主に夜で、電話掛かってきた時点で随時対応している。
- ・患者本人が患者会に入りたくても、家族が周囲にがんを知られることを嫌がって止めるケースがある。家族の理解が必要。
- ・患者会を通じ情報収集はしたいが、顔が知られるのでビラ配りなどの活動はしたくないという人もいる。
- ・宮古病院の院内サロンは1~2名の参加だが、入院中の人が多く本当に聞きたいことがあって参加しているようす。
- ・男性は気軽に話しをしない、相談をしない傾向がある。
- ・周囲にがんを隠したい人が多い。そのため手術は沖縄本島に行く。
- ・特に乳がんと子宮がんは知られたくないという人が多いように思う。
- ・離島でピアサポーターが育つことが理想だが、地元の人には知られたくないなど、本サロンを通じ難しい面があることもわかった。
- ・本島とは違うスタイルで、がんに苦しむ患者さんを救ってほしいのではないか。

【ピアサポートの重要性】

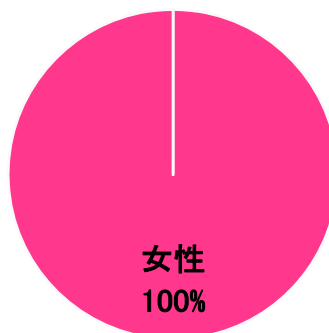
- ・インターネットで情報を得ることはできるが、相談者自身が自分の心で様々な問題を浄化しなければならない。ネットで情報収集することは否定しないが、人と話すだけでも癒されるので、「一緒にゆんたくしよう」と誘っている。
- ・告知された直後は色々な感情が渦巻くとき。ピアサポーターは医療者でもなく家族でもない存在。他人だからこそ思いをぶつけられるのではないか。
- ・医師や臨床心理士が必要と認めたときは、医療現場にピアサポーターが関わりたい。

ピアサポーターのためのピアサロン アンケート結果

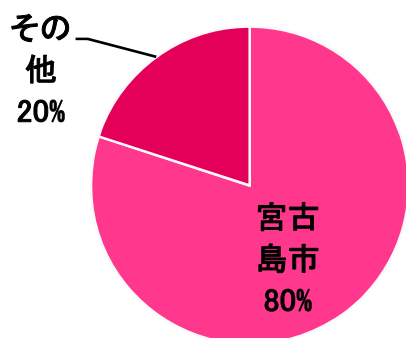
年齢



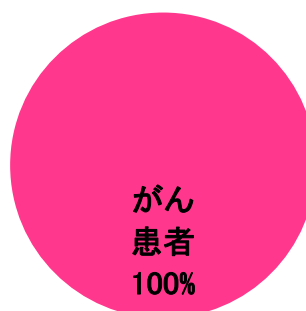
性別



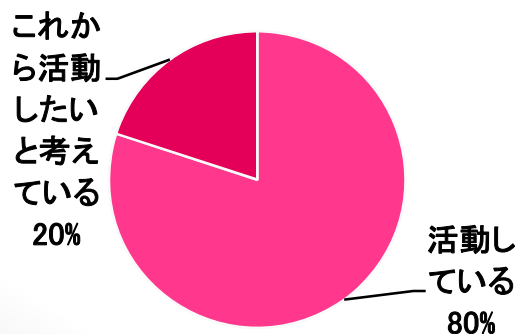
お住まいの地域



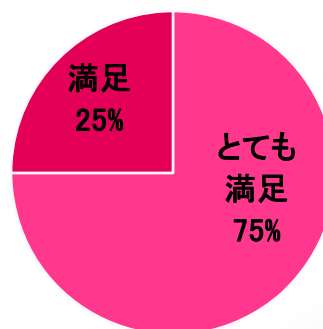
お立場



現在、患者会やサロンまたは個人としてがん患者支援活動をしているか

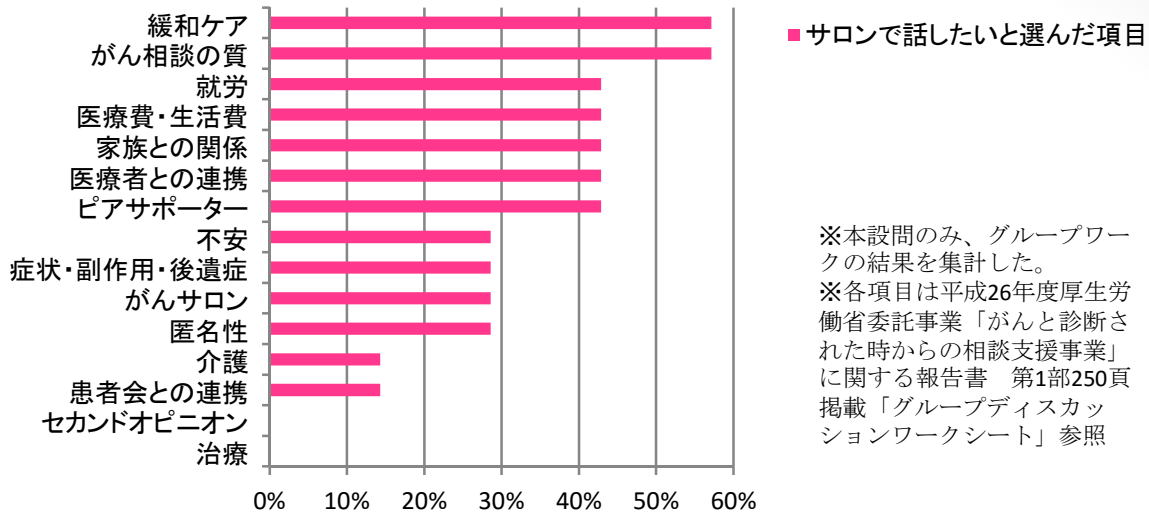


ピアサポーターのためのピアサロン満足度

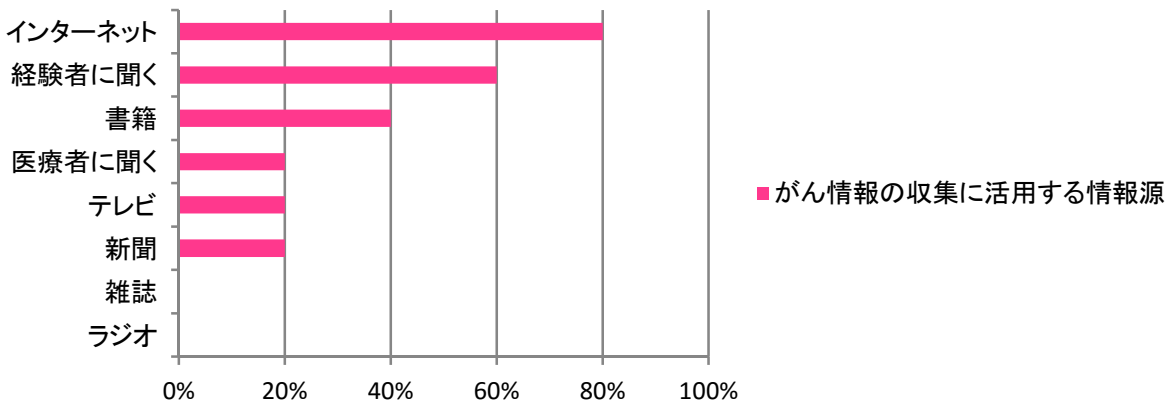


ピアサポーターのためのピアサロン アンケート結果

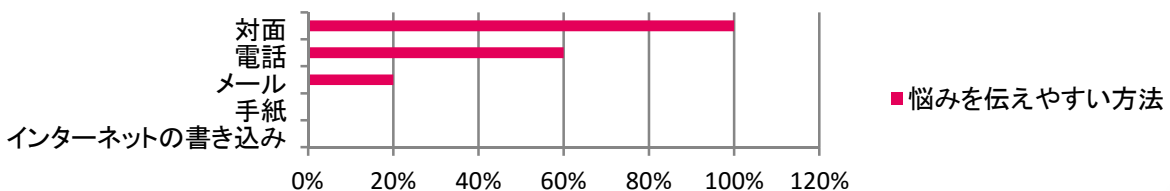
サロンで話したいと選んだ項目



がん情報の収集に活用する情報源



悩みを伝えやすい方法



本日のご意見ご感想

毎回楽しく勉強ができた

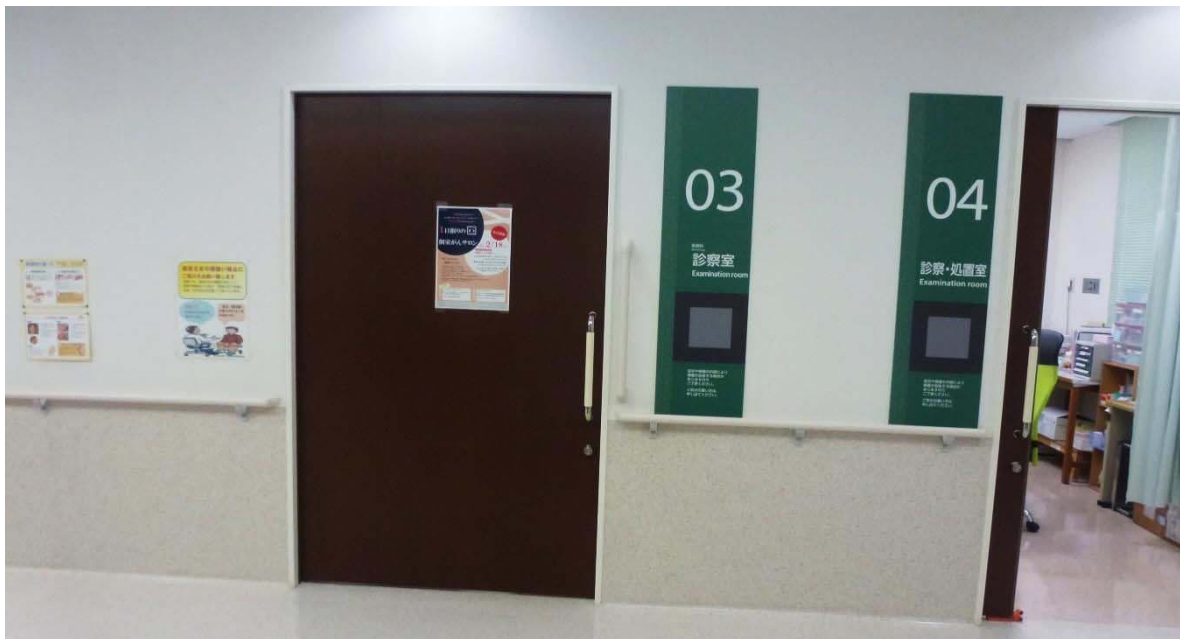
宮古のがん患者支援の様子が伝わってきてとても良かったです。

もっと時間をかけて色々とお話せたらと思います。

○ 当日の開催風景 1日限りの個室がんサロン

県地域統括相談支援センターから相談員2名をむかえ「1日限りの個室がんサロン」を開催しました。本サロンを知るきっかけとなった認知経路は新聞記事、チラシ掲示、宮古病院の看護師による紹介がありました。

▼宮古病院2階の皮膚科診察室をお借りし、「1日限りの個室がんサロン」を開催



▼相談室内の様子



○ 1日限りの個室がんサロン 利用状況

1 日時 平成28年2月18日(木) 13:00~17:00

2 場所 沖縄県立宮古病院 2階皮膚科診察室

3 相談者 8名(患者本人 6名、患者家族 2名)

4 相談員

(沖縄県地域統括相談支援センター)相談員 2名

5 内容

オープンスペースで開催した「がんピアキャラバンin石垣島(平成27年12月)」の反省をふまえ、本サロンではプライバシーに最大限配慮した個室がんサロンを実施し、4時間のあいだに8名の相談利用がありました。来訪した相談者の多くは、これまで島内でがんに関する相談をしたことがないということでした。本島から相談員が出向くことで、周囲にがんを知られたくないというニーズに応え、一定の成果を上げることができたと考えます。

6 利用状況

受付時刻	性別	立場
13:00~13:30	男性	本人
13:30~14:00	女性	本人
14:00~14:30	—	—
14:30~15:00	女性	本人
15:00~15:30	女性 男性・女性	家族 本人・家族
15:30~16:00	女性	本人
16:00~16:30	女性	本人
16:30~17:00	—	—

○ まとめと課題

実施してよかった点

- ・初の病院開催であったが、宮古病院には場所の提供、備品貸出しを快諾していただき、院長はじめ多くの医療関係者のご理解とご協力を得て実施することができた。
- ・「がんピアキャラバンin石垣島」で改善点として挙げたプライバシーに配慮した個室がんサロンを開催し、多くの人の利用があった。周囲にがんを知られたくないというニーズに応え、一定の成果を上げることができた。
- ・ピアサポーターを対象としたピアサロンでは、島内でがんを知られたくないという人が多いなか、島在住のピアサポーターとして相談者と向き合い、自宅でピアサポートを行うなど、沖縄本島と比較し、より相談者と密接な活動の様子とご苦労を伺い知ることができた。
- ・「ピアサポートをどう活用すればよいかわからない」という宮古病院の医療者からの声を受け、医療者側の理解を深めることを目的に、「先進地に学ぶがんピアサポート」の講演DVDとダイジェストレポート(別添資料)をイベントに先立ち配布した。当日は複数の医療者から個室がんサロンに紹介があったことから、一定の効果はあったと感じている。

実施して改善すべき点 (青字は所感、赤字は改善案)

- ・地域のピアサポーターに対し、ピアサポートの機会を創出することができなかった。

→本イベントの開催目的のひとつに、地域のピアサポーターにピアサポート活動の機会を与えることを挙げているが、島内在住者にがんであることを知られたくない患者・家族が多く、地域のサポーターに個室サロンの相談員を務めてもらうことができなかった。

⇒本島から相談員が出向いたことが、今回の相談件数増につながったと見ているが、今後も引き続き本イベントや案内ツールを活用したピアサポート活動の推進を図ることで、徐々に住民や医療者の理解が得られ、地域サポーターの活動範囲が広がるのではないかと考える。

- ・医療者との振り返りができなかった。

→本イベントについて医療者を交えた振り返りミーティングを持つべきだったのではないか。

⇒タイムスケジュールを見直し、次回以降は振り返りミーティングの時間を設定したい。個人情報保護の観点から、ピアサポート活動は守秘義務厳守なので、その点に配慮し、どのようなかたちであれば情報共有が可能か検討の必要がある。

がんピアサポート展

開催報告

沖縄県地域統括相談支援センター 主催

開催概要

- 1 名称 がんピアサポート展 ～ 泣いていい場所、提供します。～
- 2 場所と日時 北中城村役場1階ロビー
平成28年2月8日(月)～19日(金) 2週間

沖縄県がん患者等支援事業主催「がんピアキャラバン」内にて開催
①石垣市健康福祉センター1階こどもセンター
平成27年12月6日(日)
②沖縄県立宮古病院1階ロビー
平成28年2月18日(木)
- 3 対象 開催地域の住民、がん患者およびその家族、関心のある方
- 4 目的 沖縄県地域統括相談支援センターの普及広報
地域統括相談支援センターの概要や利用方法などを分かりやすく説明するパネルのほか、「泣きたいときが、あっていい 落ち込むときも、あっていい」をキャッチフレーズに地域統括相談支援センターは、がん患者やその家族が自身の抱える感情を吐き出す場であり、それにピアサポーターが寄り添うことで気持ちの整理をつける場でもあることを地域住民に展示紹介する。
相談することは無いが経験者はどうであったかの話を聴きたい需要は多いと推察されることから、同時にがん体験者の話が聴ける場であることも紹介する。
- 5 内容 ①沖縄県地域統括相談支援センター概要
活動内容、対応時間等の基本的な情報案内。
②相談実例(匿名)
実際の相談内容を数点紹介することで、来場者にイメージさせる。
③がん情報等(各種がん冊子・生活の工夫カード等)
④説明のできる人員の配置
常に対応できる人員の配置が望ましい。事務員、ピアサポーター。

【振り返り】

- ・役所のロビーということもあり、多くの人が行き来するため広報場所としては最適と考える。
- ・常に展示場所にいることが困難なため、観覧者数の把握が困難である。
- ・石垣市健康福祉センターでは同市主催の「健康福祉まつり」のひとつとして展示させていただいたため、他団体も多く展示や出店など賑わっていた。
- ・沖縄県立宮古病院ロビーでは、玄関付近のスペースを提供していただき、出入りする人の目に触れる機会が多かった。

【反省点】

- ・パネル付近で説明員として待機していると足をとめて観覧する人はいないが、説明員がいなくなると観覧するという現象があった。このことから病気を人に知られたくない心理が働いていると考えられ、パネル展に説明員は不要であると思われる。
- ・役場ロビーで開催時にはアンケートを試みたが回答数はわずか2件で、観覧して情報を得る場では有効とは言えないが、回答された2件の中にはご意見が記入されていたこともあり地道に意見収集をすることは可能である。

【アンケート集計】 回答数 2 件

Q 1. 性別は？	男性 2 件	Q 2. 年代は？	30 代 1 件
	女性 0 件		40 代 1 件

Q 3. がんピアサポートの内容はいかがでしたか？ ととても良かった 2 件

Q 4. ご自身ががんになったとき、
ピアサポートを利用したいと思えますか？ ととても思う 1 件
わからない 1 件

Q 5. ご家族や大事な人ががんになったとき、
ピアサポートを教えてあげたいと思えますか？ ととても思う 1 件
わからない 1 件

ご意見・ご感想

いざ自分が当事者になったら考えると、心が苦しくなりました。
ピアサポーターの方や、自分の気持ちを聞いてくれる機関があれば、少しは楽になるのかなと考えさせられました。

北中城村役場ロビー



石垣市健康福祉センター 1階こどもセンター



沖縄県立宮古病院 1階ロビー



がんピアサロン 開催報告

実施日：平成 28 年 3 月 5 日（土）

主催 沖縄県地域統括相談支援センター
後援 沖縄県がん患者等支援事業／琉球大学医学部附属病院がんセンター

開催概要

- 1 名称 がんピアサロン：salon de café
- 2 日時 平成 28 年 3 月 5 日（土）13：00～16：00
- 3 場所 コミュニティカフェ よなくる 与那原町上与那原 335-1
- 4 対象 がん患者、家族、遺族、医療関係者、関心のある方
- 5 参加費 無料
- 6 目的 カフェで開催することによりリラックスした雰囲気に参加者同士が言葉をかけやすくし、不安や気持ちを分かち合い、情報を交換し合うことで病気に対する不安軽減につなげる。
 特に相談することはないが情報がほしい人でも、カフェを利用しながらがんに関する資料等を読んだりできる場所を提供するとともに、沖縄県地域統括相談支援センターに関する情報も同時に提供し支援体制の周知と相談室の利用率向上を図る。
 またサロンを通して対応経験を重ねることでピアサポーターの資質を高める。
- 7 主催 沖縄県地域統括相談支援センター
- 8 後援 沖縄県がん患者等支援事業／琉球大学医学部附属病院がんセンター

タイムスケジュール

開始	終了	所要時間	内容	詳細
12:30	12:40	10分	統括・がんセンタースタッフ、 ピアサポーター会場入り 事前打合せ	①スタッフ顔合わせ ②サロンの流れ確認 ③ピアサポート活動の注意点 ④その他
12:40	13:00	20分	会場設営	①受付設置 アンケートの配布と回収 ②情報コーナー設置 冊子・チラシ等
13:00	16:00	180分	フリートーク	グループに分かれて自由に話す 各グループに1名ピアサポーターを配置する
16:00	16:20	20分	片付け	会場の原状回復
16:20	16:50	30分	反省会（その場で）	振り返り

開催内容

【参加人数】 2名

【スタッフ】 がんピアサポーター2名
アドバイザー2名
沖縄県地域統括相談支援センター事務員1名、がんセンター事務員1名

【振り返り】

- ・純粋なサロンとしてイベント等は設けずに開催したためか、悪天候が影響したのか参加人数は伸びなかった。
- ・参加した方は少なかったが少人数だったため、ひとつのテーブルに全員が集まり和気あいあいと終始話が途切れることはなかった。また、各々が自由に席を離れたり戻ったりできる雰囲気作りができていた。
- ・カフェを貸切ったため、準備等は比較的簡易に行えた。

【反省点】

- ・参加人数が少なかったことから、開催場所（南部だけではなく中北部など）や時間帯の変更などを検討する必要がある。
- ・今回の参加者はスタッフを含めて40代が中心であったため、同世代の交流に繋がったと考える。
- ・受付は参加者に難色を示されたため、今後行うか検討が必要である。
- ・今回のサロンは参加者は少なかったものの、じっくり話げたことから個人の満足度は高いと言える。

当日の様子



案内チラシ

がんピア *salon de café.* **サロン**

飲食物の持込みOK

フリードリンク付き!
・コーヒー
・紅茶

がんに関する「あれ」や「これ」みんなはどうしているのかな？お茶を飲みながらおしゃべりしませんか？この機会にぜひお越しください。

- がんを体験したピアサポーターがお迎えます。
- 個室もご用意。他の方に話しを聞かれたくない方はお申し出ください。

日時	場所
2016. 3/5 (土) 13:00~16:00 (途中参加・途中退室など自由です)	コミュニティカフェ よなくる 与那原町上与那原335-1

対象：がん患者、家族、遺族、医療関係者、関心のある方
 参加費：無料
 お問い合わせ：沖縄県地域統括相談支援センター
 琉球大学医学部附属病院3階 西原町字上原207番地
 【TEL】098-942-3407 【FAX】098-942-3408

がんピアサロンってなあに？

がんピアサロンとは、がん患者さんやそのご家族ががんに関する情報を交換したり、生活のこと、病気のことなどの不安や心配ごとを共有し合う交流会です。
 ふだん聞けないようなことも同じがん患者同士だと語り合えたり、「自分だけじゃない」と勇気づけられたり、分かち合えることがたくさんあります。

がんピアサポーターってどんなひと？

がん患者さんや家族の方の不安な気持ちや心配ごとを、同じ立場で聴いたり、自身の体験をお話したりするがん体験者のことです。
 「がんピアサポーター養成講座」でトレーニングを受けています。



新聞無料広告

琉球新報の副読紙
2016
3.3
No.1610
LEQUIO

vol.1610 2016.03.03 Lequio 22

■がんピアサロン 5日(土)13:00~16:00 コミュニティカフェよなくる(与那原町上与那原) 無料
 内容：がん患者やその家族が情報を交換したり、心配ごとを共有し合ったりする交流会。途中参加・途中退室自由
 ☎098-942-3407〔県地域統括相談支援センター〕

第5回 宮古医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成28年2月18日（木） 14時～16時

場 所：沖縄県立宮古病院 3階 講堂

テーマ：宮古医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者： 沖縄県立宮古病院 病院長 上原 哲夫
沖縄県立宮古病院 外科部長 松村 敏信
沖縄県立宮古病院 副院長兼看護部長 本村 悠子
沖縄県立宮古病院 副看護部長 小祿 範子
沖縄県立宮古病院 地域連携室室長 佐渡山 英子
沖縄県立宮古病院 外科病棟師長 金城 春美
沖縄県立宮古病院 がん性疼痛看護認定看護師 青沼 裕美子
沖縄県立宮古病院 地域連携室 相談員 古謝 亜紀

宮古島市生活環境部 健康増進課 課長 宮国 泰誠
宮古島市生活環境部 健康増進課 新里 和子

宮古福祉保健所 健康推進班 班長 金城 房枝
宮古福祉保健所 健康推進班 保健師 銘苺 美奈子

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会計 小路 千恵子
離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 記録 砂川 洋子

まんま宮古 会長 深澤 麗子
まんま宮古 天久 洋子

日本オストミー協会 宮古支部 支部長 下地 一正

ぴあナースの会宮古支部 支部長 新城みゆき

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

陪席者： 琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <5分>

初参加となる宮古島市役所健康増進課の新里氏、ぴあナースの会宮古支部の新城氏より自己紹介があった。

3. 報告事項

(1) 「がんピアキャラバン in 宮古島」開催お礼 <1分> 【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

本日、県立宮古病院内で開催中の「がんピアキャラバン in 宮古島」について、上原院長先生はじめ病院職員に向けて開催のお礼が述べられた。

(2) 中間評価報告書（案）について <5分> 【資料2】 ※資料は事後に回収

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

平成27年度沖縄県委託事業「がん対策推進計画中間評価検討業務委託事業」に係る「沖縄県がん対策推進計画（第2次）分析報告書（案）」について報告があった。中間評価の要旨として全体目標や分野別施策の個別目標等に関して解説があった。

(3) がん患者さんのための療養場所ガイド 宮古島市編 多良間村編<3分> 【資料3】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

現在制作を進めている「がん患者さんのための療養場所ガイド(全8巻)」について報告があった。本誌のコンセプトは「地元のできるがん医療」。宮古医療圏では多良間村編と宮古島市編を作り、主な医療機関やがん診療連携拠点病院などで無料配布を予定している。

(4) 花を咲かせるプロジェクト進捗報告<1分>

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

継続中の花を咲かせるプロジェクトでは、宮古森林組合や個人から苗や球根、土などの提供があったとの報告があった。地域の人の心がこもった花園になるので、花が咲くのを楽しみにしていてほしいとの声を受け、本村看護部長よりお礼の言葉が述べられた。

(5) パンフレットコーナーの取り組みについて<1分>

・沖縄県立宮古病院 地域連携室室長 佐渡山 英子

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

宮古島市立図書館と宮古病院が連携し、図書館にがん情報冊子等を設置した取り組みについて、佐渡山室長と提案者の真栄里会長より報告があった。

(6) 宮古島ルミナリエ開催お礼<1分>【資料4】

・ぴあナースの会宮古支部 支部長 新城 みゆき

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 沖縄うらそえ」に関連したイベント「ルミナリエ宮古」について開催報告があった。今回はあいにくの雨で中断となったが、今回は関係者との連携を強化してさらに一歩進んだイベントにしたいと意気込みを語った。

4. 協議事項・要望事項

(1) 平成 27 年度宮古医療圏がん医療連携協議会 振り返り<15分>【資料5】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

平成 27 年度を中心に、これまでに上がった協議事項、要望事項を 1 項目ずつ整理し、来年度以降の取り扱いについて協議した。これにより全 39 項目中、25 項目は協議を終了、14 項目は次年度も継続して協議となった。

<協議結果>

【改善等が見られ、協議を終了する議題】

- ・患者会主催の講演会に医療者も参加してほしい。
- ・年に数回病院と話し合いの場を設け、連携強化を図りたい。(年 4 回程度)
- ・病院側で実際に検討・実行した内容をきちんと患者会へフィードバックしてほしい。
- ・医療者、行政とともに集まる交流の機会を設け、顔の見える関係を築きたい。
- ・次回宮古島市の担当者や多良間村の担当者にも交流会に入ってもらえるように働きかけたい。
- ・医療者、行政とともにイベントを共催し、宮古島のがん対策を強化したい。(リレーフォーライフ、ピンクリボン運動、がん検診など)
- ・いのちの授業への協力について
- ・患者向けのがん関連図書コーナーを設置してもらいたい。
- ・患者会のチラシやポスターを配布・設置してもらいたい。
- ・国がんのがん種別小冊子を設置してもらいたい。
- ・宮古病院の医療コラムの切り抜きをファイルに集めて患者さんが見られるようにしてほしい。
- ・オストミー患者の情報を提供してほしい。
- ・図書コーナー・情報提供コーナーの掃除やチラシの補充を患者会が定期的にした。
- ・地域連携室への動線を考慮して、ソファのレイアウトを変更して欲しい。テレビの配線を変更してほしい。
- ・定期的に患者会の活動のため、場所を提供してほしい。(頻度や場所はお互い調整の上決定)
- ・宮古病院にて各がん種の一般市民講座を行ってもらいたい。(一年に数回、5 大がん、各 30 分程度)
- ・病気になる前の、初期症状に関する講演会を行ってほしい。
- ・医療費の助成等、現在役所等で行う手続きを病院で行いたい。
- ・ゆんたく会の中で宮古病院の医療者によるミニ講座の時間を設けてほしい。医療者と患者会の接点を作りたい。
- ・ゆんたく会に患者会がもっと関わっていききたい。

- ・ゆんたく会でピアサポーターとして関わりたい。
- ・ゆんたく会の参加者を増やせるよう、広報のお手伝いをしたい。(患者会会員へチラシの配布等)
- ・患者への伝え方に気を配って欲しい。誰にでも分かる言葉で伝えてほしい。説明した内容を紙に書いて渡して欲しい。
- ・医療者にとっての日常茶飯事は患者にとって人生に一度のこと、患者さんの気持ちに寄り添ってほしい。
- ・病院としてセカンドオピニオンをとることを積極的に推奨してほしい。
- ・患者会から市に対する要望書を提出することを検討する。
- ・次年度のサロンの計画にも患者会に協力してほしい。お菓子作り等企画し、医療スタッフと患者会の親睦を深めていきたい。

【来年度も継続協議が必要な議題】

- ・患者本人が要介護でなくても付き添い人を助成の対象にしてほしい。(渡航費助成)
- ・血液専門外来の設置と専門医師を配置してほしい。(人員配置)
- ・島内に診療科がなく島外へ通院する場合の制度適用を検討してほしい。(宿泊支援)
- ・宮古島・石垣島にも病院近隣に安価で宿泊できるファミリーハウスのような施設がほしい。(宿泊支援)
- ・手術の付き添いについても制度適用をぜひ検討してほしい。(宿泊支援)
- ・患者会が活動できる場所を確保したい。(施設)
- ・宮古病院にて皮膚排泄ケアの認定看護師によるストーマケアの勉強会をしてもらいたい。(講演会勉強会)
- ・宮古病院にて、緩和ケア、疼痛緩和ケア、化学療法、放射線療法、乳がん看護の認定看護師の患者向けの話を聞きたい。(講演会勉強会)
- ・患者会が正しい知識を持ってピアサポートが出来るように基本的なピアサポーター研修会を行ってほしい。(栄養、食事の工夫、リハビリ、副作用対策、補完代替療法への知識など)(講演会勉強会)
- ・宮古島市との講演会は現在宮古テレビで何度か再放送されている。待合いの時間に DVD を流してほしい。(講演会勉強会)
- ・ゆんたく会の中で宮古病院の医療者によるミニ講座の時間を設けてほしい。(講演会勉強会)
- ・宮古島に緩和ケア病棟をつくってほしい。(その他)
- ・本島で出来る治療を離島でもできるように努力してほしい。(その他)
- ・患者さんの気持ちが和むように花壇に花を植えたい。(その他)

(2) 平成 27 年度宮古医療圏がん医療連携協議会 実施状況<35 分> 【資料 6】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

(1) での振り返りを踏まえ、平成 27 年度の実施状況として本年度の成果・課題・次年度に向けた取り組みについて、分類別に下表のように整理した。

<協議結果>

分類項目	H27年度の成果	課題	H28年度に向けた取り組み
連携	<p>○協議会の定期開催が定着した。</p> <p>○協議会でステークホルダーが互いの現状を報告することで相互理解が得られ、相手の立場を尊重しての議論を行うことが可能になった。</p> <p>○患者会主催のイベントに、がん支援委員会のメンバーが交互に参加することの了承が得られた。</p>	<p>○開催月が議会開催と重なり、宮古島市の参加回数が少なかった。</p>	<p>○本協議会の継続的な取り組みが、離島におけるがん医療の改善、質の向上につながる可能性があるため、今後も引き続き協議会を開催する。</p> <p>○宮古島市が入らないと解決できない問題もあり、開催月を考慮して行政が参加しやすい体制づくりをする。</p>
渡航費助成	<p>○がん患者の渡航費助成について、行政と患者会が積極的に意見を交わした。</p>	<p>○患者会は同伴者を助成対象にするよう要望したが、市は患者本人の渡航回数を増やすことを優先に検討したいと返答し、意見の相違があった。</p> <p>○がん以外の特定疾患が増えている現状がある。</p>	<p>○宮古島市を中心に検討を進める。</p>
人員配置	<p>○H27年8月にがん患者会5団体の連名で「血液専門外来開設」の血液専門外来開設の要望書を提出した結果、中部病院の派遣医師による巡回診療が10月から実施された。</p>	<p>○沖縄本島でも血液専門医は少ないため、応援外来の診療回数が少ない。</p>	
情報提供	<p>○国がんのがん種別小冊子を地域連携室前、がん相談室（化学療法室隣）、各階ロビーの情報コーナーに設置した。</p> <p>○患者会のチラシやポスターを、院内に配布・設置することが了承された。</p> <p>○医療コラムをまとめたファイルを各科外来の待合室に設置し、閲覧できるようになった。</p> <p>○患者会が作成したオストミー患者向けパンフレットを、医療者から患者に紹介してもらうことので了承が得られた。</p>		<p>○情報提供については大幅な改善が見られた。今後は患者会の情報を常設できるよう患者会側が取り組みを強化する。</p>

分類項目	H27年度の成果	課題	H28年度に向けた取り組み
宿泊支援	<p>○病院近隣に安価で宿泊できるファミリーハウス配置について、積極的に意見を交わした。</p> <p>○宿泊支援制度について、積極的に意見を交わした。</p>	<p>○ファミリーハウスの運営には費用やマンパワーがかかる。</p> <p>○ファミリーハウスの宿泊患者数が少ない場合、費用対効果が低い。</p> <p>○宿泊支援制度の利用実績は1組2名にとどまっており利用が少ない。</p>	<p>○ファミリーハウス配置については今後も継続協議する。</p> <p>○渡航費助成に宿泊補助を加える制度拡大など、より現実的な策についても併せて検討する。</p> <p>○宿泊支援制度は、ニーズによっては支援措置が拡大する可能性があり、化学療法での制度適用などについて今後も議論を深める。</p>
施設	<p>○外来会計前にあるソファの配置変えを実施して、地域連携室に周囲の視線を気にせずスムーズに入れるようにした。</p>		<p>○術後の補正具等を展示できる患者会活動可能な場所を確保したい。</p>
講演会 勉強会	<p>○病院開催の健康講座について、患者会と情報共有をしながら進めていく方針が提案され、承認された。</p> <p>○ピアサポーターの知識を高めるフォローアップ研修会を沖縄本島で開催し、宮古島市からも2名の参加があった。</p> <p>○宮古テレビで放送した健康講座を収録したDVDの院内放送について、積極的に意見を交わした。</p>	<p>○テレビ放送した健康講座について、がんシリーズの保存がほぼなかったため貸出公開に至っていない。</p>	<p>○地域連携室の佐渡山室長を窓口とし、患者会から健康講座のテーマや勉強会に関する要望をあげる。</p> <p>○宮古病院における認定看護師は、皮膚排泄ケア認定看護師、がん性疼痛緩和看護師に限られるため、他施設からその他の専門看護師を呼び勉強会を開催することも検討する。</p>
患者支援	<p>○現在、役所に対応している医療費助成等の手続きを病院で行いたいという要望について、積極的に意見を交わした。</p>	<p>○病院に専任の職員を配属することは困難である。</p>	
ゆんたく会 院内行事	<p>○ゆんたく会について、患者会、病院の双方から連携の要望があり、互いが協力し医療者と患者会が親睦を深めていくことで承認が得られた、</p> <p>○地域住民向けイベント「オープンホスピタル」に患者会の参加が承認され、ブース出展した。</p>	<p>○ゆんたく会に参加する患者が多くない。地元新聞に広報を開始している。</p> <p>○オープンホスピタルの患者会ブースはスタッフが無人だったため、参加者に対し展示パネルの説明ができなかった。</p>	<p>○事前に宮古病院から各患者会のリーダーに連絡を入れ、患者会で参加メンバーを調整のうえ、少なくとも1名をピアサポーターとして派遣し、ゆんたく会に参加する。</p> <p>○次回オープンホスピタル開催時は出展方法を工夫する。</p>

分類項目	H27年度の成果	課題	H28年度に向けた取り組み
その他	<p>○セカンドオピニオン推奨やインフォームド・コンセントに関する患者会からの要望に院長から賛同の声があり、医局会で周知を図ることが了承された。</p> <p>○宮古病院を来訪する人々の気持ちが和むように花壇への植栽を提案し、院長の了承を得て、病院入口付近に花を植えた。</p>	<p>○病院入口付近は喫煙が目立つ場所であり、環境美化推進で、喫煙減少に期待が高まる。</p>	<p>○今後も総務課を窓口とし、植栽の範囲や方法などについて調整をする。</p>

(3) 血液疾患専門外来の状況ならびに広報等について<10分>【資料7】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

血液疾患専門外来の利用状況を知りたい。外来開設を住民に広く知らせて必要な人が利用できるようにしてほしい。専門の先生による外来は月1回だが、内科の先生が連携をとって診療することがわかれば島で治療したい人がいるのではないか。

<状況>

上原院長から現状について説明があった。中部病院から専門医を定期派遣し、月1回の血液疾患専門外来をスタートしたが、体制等の問題で患者さんから厳しい声をいただいている。そもそも沖縄県に血液専門医は少なく、人材確保は容易ではない。月1回の外来ではできる範囲で患者さんの負担を軽減することしかできない。このように制限のある外来開設なので、広く広報はしておらず、地域連携室に来た患者さん等の利用にとどまっている、とした。本村看護部長からは当初3名の患者さんが現在では10名程度に増えたと報告があり、看護体制の改善に向けて継続して検討したいと説明があった。増田からは、月1回の外来で白血病の治療をすることは厳しいが、内服抗がん剤の患者さんなどは十分に対応できるのではないか。住民の皆さんの期待度は理解しているが、本件については長い目で見てほしい、と述べた。

<協議結果>

- ・現状の月1回では対応に限りがあるため、外来開設を広報する予定はない。【宮古病院】
- ・がん化学療法看護認定看護師など、スタッフを育てて地域の要望に応えたい。【宮古病院】

(4) 島内における在宅医療の状況ならびに家庭医療センターの地域連携について<10分>【資料8】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

宮古病院の家庭医療センターでの訪問診療や看護の現状について知りたい。南静園の一般受け入れ枠4床を看取りでも利用できるか知りたい。がんの看取りに際し、必要な情報がすぐ得られるようにしてほしい。

<状況>

上原院長から家庭医療センターの現状について説明があった。主に総合内科を診ながら訪問診療を行っており、地域の開業医の先生方が難しい症例を中心に現在 17 件ほど訪問し、看取りについては 15 名ほどの実績がある、とした。松村外科部長は宮古病院のスタンスとして、島内の開業医の先生方に対し現業圧迫をしない、在宅医療を積極的に広げようという立場ではない、と補足を述べた。南静園の病床数に関連し、佐渡山室長から一人暮らし男性の南静園での受け入れ検討について事例紹介があった。増田からは在宅療養に有効な情報として「ご家族のための がん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」が紹介され、在宅で療養する家族に読んでもらう本としておすすめなので、ぜひ手に取ってほしいとコメントした。

<協議結果>

- ・家庭医療センターでは開業医で対応の難しい症例を中心に訪問診療を行っている。【宮古病院】
- ・南静園は患者さん受け入れに積極的なので、今後も必要に応じ相談して進めたい。【宮古病院】
- ・在宅療養に有効な情報として「ご家族のための がん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド」おすすめする。【琉大病院】

(5) 病床数削減で想定されるがん患者さんへの影響と対策について<10分>【資料9】

- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

病床数が約半数に削減されるという新聞報道に不安を感じている。病床数が削減されたら、患者にとってどんな不都合が予測されるのか等を知りたい。

<状況>

増田から、2025 年の医療体制を検討する県地域医療構想検討会議について説明があった。国の施策は病床数を減らすことをすべての都道府県に提案しているが、本県は病床数が増える 6 つの都道府県のひとつである。一方、圏域別では北部、宮古、八重山で減少が見込まれている。すでに 2 次医療圏ごとの検討会議も始まっており、管轄の保健所長を議長に将来の病床数について意見を交わしている、と述べた。宮古福祉保健所の金城班長からは、病床数の議論と同時に、在宅での受け入れ整備や介護保険との連携など、地域でどう患者さんを支えるのか枠組みを作っている段階であると説明があった。病床が半減すると不安を感じるという真栄里会長に対し、要望書を提出してはどうかとの意見が挙がった。

<協議結果>

- ・病床数については関係団体から保健所に対し、要望書を出してはどうか。【協議会⇒患者会】

(6) 「みんなで乳がん検診を受けようキャンペーン」協催について<3分>【資料10】

- ・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

病院、宮古島市役所、保健所、患者会が連携し「みんなで乳がん検診を受けようキャンペーン」を開催したい。

<状況>

患者会の真栄里会長から要望に至った背景などが語られた。知人の家族が乳がんを2年間放置していたという話を聞き、呆然とした。キャンペーンを通じ、早期発見、早期治療を促進したい。キャンペーンの内容については、医療者は乳がんについてのミニ講演、マンモ検査を女性のレントゲン技師が行い恥ずかしくないこと、エコーについてパネル展示。宮古島市は乳がん検診の申し込み方法や、乳がん模型での自己検診の仕方、渡航費支援など治療する際の補助事業。保健所は宮古島市の罹患率、受診率、早期受信の必要性についてなど、具体的な提案があった。これを受け増田は、本件についてはぜひ宮古島市で検討して当センターに相談してほしい。井岡医師は「沖縄県検診担当者研修会」で講師も務めており、効果的効率的な検診の実施について相談に応じることができると呼びかけた。実施に伴う啓発活動については、患者会の積極的な協力が不可欠である、とした。

<協議結果>

・宮古島市で検討して、効果的効率的な検診の実施を当センターに相談してほしい。【琉大病院⇒宮古島市】

(7) 喉頭摘出患者の言語訓練に関する患者支援の取り組みについて<5分>【資料11】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

喉頭がんの患者さんは、琉大病院や中部病院など本島の病院で手術して島に戻ってくる。喉頭摘出後の言語訓練支援や社会参加支援を宮古病院や宮古島市では現在どのように行っているのか。

<状況>

上原院長から、現在、耳鼻咽喉科外来では喉頭摘出の患者さんは診ていないが、要望があれば医師に相談し対応を検討する、と説明があった。宮古島市健康増進課の新里氏からは、本件は「日常生活用具給付事業」に関連し障がい福祉課が担当の可能性があると説明があった。

<協議結果>

・喉頭摘出患者に対しどのような支援が可能か、担当部署に確認をする。【宮古島市】

(8) 3/5 食道発声訓練 講演会への参加協力依頼<2分>【資料12】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

3/5に宮古島市中央公民館で開催される講演会と食道発声訓練について、医療関係者、行政に多くの参加を呼びかけた。患者会の真栄里会長は、喉頭摘出した患者さんが何に困っているか、何を望んでいるかを知るチャンスだと訴えた。

<協議結果>

・本協議会をはじめ医療職、行政職からの多くの参加を促した。【患者会】

(9) 平成28年度がん患者支援事業に対する要望について<3分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

次年度の本事業について、要望や意見があれば当センターでお受けすることを出席者全員に伝えた。

<協議結果>

- ・本事業に対する要望があれば、当センターまで個別に連絡してもらおう。【琉大病院⇒協議会】

5. 閉会のご挨拶 <5分>

・沖縄県立宮古病院 病院長 上原 哲夫先生

2015年4月から地域診療病院として指定を受け、定期開催している本協議会も第5回をむかえた。今後も皆さんの意見を伺いながら、専門医師や認定看護師など人を集め育てて、地域に提供できる医療を充実させていきたい、と締めのご挨拶がされた。

第4回 八重山医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成28年3月11日（金） 13時～15時

場 所：沖縄県立八重山病院 2階 第3会議室

テーマ：八重山医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝
沖縄県立八重山病院 看護部長 上盛 厚子
沖縄県立八重山病院 地域連携室師長 宮良 久美江
沖縄県立八重山病院 伊良皆 香代

石垣市市民保健部 健康福祉センター 所長 前底 正之
石垣市市民保健部 健康福祉センター 保健師 宮良 由美子

八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会長 新城 純
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 比嘉 由子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 事務局 玉城 みち子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 宮國 惠慈

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

陪席者：琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <5分>

出席者の紹介に代わり、依光院長から、平成28年4月よりがん診療連携診療病院の指定を受けることについて報告があった。

3. 報告事項

(1) 中間評価報告書(案)について <10分>【資料1】※資料は事後に回収

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
平成27年度沖縄県委託事業「がん対策推進計画中間評価検討業務委託事業」に係る「沖縄県がん対策推進計画(第2次)分析報告書(案)」について報告があった。中間評価の要旨として全体目標や分野別施策の個別目標等に関して解説があった。

(2) がん患者さんのための療養場所ガイド 石垣市編 竹富町・与那国町編<3分>【資料3】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
現在制作を進めている「がん患者さんのための療養場所ガイド(全8巻)」について報告があった。本誌のコンセプトは「地元でできるがん医療」。八重山医療圏では石垣市編と竹富町・与那国町編を制作し、主な医療機関やがん診療連携拠点病院などで無料配布を予定している。石垣市市民保健部健康福祉センター前底所長から、各診療所長の人事異動によって診療内容に変更が生じた場合はどのように対応するのか質問が寄せられた。これを受け増田からは、掲載内容の変更については、今後ホームページ等で更新していくことを検討しているとの回答があった。

(3) 本協議会への八重山地区医師会医師の参加要望について【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
前回、石垣市市民保健部健康福祉センター前底所長から要望を受け、事務局預かりとなった本件について、増田より進捗報告があった。八重山地区医師会長宛に医師派遣の依頼文書を発送し、直前に予定している理事会の議題に追加していただくことになった。今後は次年度第1回目への参加実現に向け、本協議会の開催時間等を検討していきたい、とした。

(4) 八重山病院勤務医師の専門分野等に関する患者向け情報提供について【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝
依光院長より報告があった。患者会から重ねて要望のあった本件については、すでに雛形を作成しており石垣市とも広報手法について話し合いをしている。近く広報委員会の開催を予定している

ので、勤務医師の4月人事を考慮しながら次年度に向けて進めていきたい。本件の進捗状況については次回以降の本協議会で報告をする。

(5) 各がん種や緩和ケア等の講演会・勉強会開催について【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

- ・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝
- ・沖縄県立八重山病院 地域連携室師長 宮良 久美江

患者会の田盛副会長から勉強会や講演会開催時に連絡がほしいという要望を受け、依光院長と宮良地域連携室師長から現状について報告があった。以前、八重山病院で開催していた「ミニ講演会」は聴衆が来院者に限られるため現在行っておらず、いまはより多くの地域住民に八重山病院を知ってもらうことを目的に、各種団体等から講演要請を受けて「出前講座」を開催している。よって病院側から患者会等に向けて開催通知は行っていない。勉強会については開業医向けに始めた勉強会を毎月第3木曜日に実施している。一般市民が参加できる内容の際には、宮良地域連携室師長から患者会に向けて広報をすることが決まった。

(6) 地域連携室にがん患者を支援する専属の事務員(相談員)を配置について【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

- ・沖縄県立八重山病院 看護部長 上盛 厚子

上盛看護部長から、次年度のがん診療連携診療病院指定に伴い、4/1 から専従・専任の相談員を配置することが決定したとの報告があった。

(7) 口腔外科外来／血液内科外来／脳神経外科外来の設置および勤務医師の定着について【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

- ・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝

各件について依光院長から報告があった。現在、口腔外科外来の設置はないが、業務応援の医師がチームで対応している。血液内科についても外来の設置はないが、腫瘍内科医である玉城副院長がいるため、診断は可能である。脳神経外科については2年ほど医師確保を働きかけているが依然困難な状況であり、下地脳神経外科と地域連携し対応している、と述べた。これを受け増田は、がん療養に伴う島外渡航の負担は理解しているが、いずれの場合もまずは病気を正しく疑うことが重要であり、開業医との連携や玉城副院長がいることにより、その点は地元で十分に機能しているのではないかと述べた。また、いわゆる希少がんについては施設集約の傾向があるとの説明があった。医師の入れ替わりについては、短期間だからこそ医師が離島へき地に赴任する現実もあり、定着化の実現は難しい問題ではないかとした。

(8) 島外で手術・治療を受けた患者の地元でのフォローについて【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

・沖縄県立八重山病院 看護部長 上盛 厚子

本件に関連し、石垣市市民保健部健康福祉センター前底所長から、乳がんで沖縄本島のクリニックに通う患者さんのフォローについて質問が寄せられた。これを受け上盛看護部長から、八重山病院には化学療法看護認定看護師もおり、問題なくフォローできるとの回答があった。続けて、患者さんのなかには退院後も手術をした沖縄本島の病院に通い続けなければいけないと思う人が多く、そうした背景には、病院や行政側からの情報発信不足も起因しているのではないかと。琉大がんセンターより刊行される「がん患者さんのための療養場所ガイド」が、地域住民はもとより沖縄本島の医師にとっても離島の現状を知るきっかけとなり、より一層の地域連携につながればと話した。

(9) 患者へのセカンドオピニオン推奨と病状等説明時の配慮について【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

・沖縄県立八重山病院 看護部長 上盛 厚子

・八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子

本件に関連し、セカンドオピニオンに掛かる費用について、患者会の田盛副会長と石垣市市民保健部健康福祉センター前底所長から質問が寄せられた。これを受け増田から、セカンドオピニオン外来の所要時間は多くの場合1時間程度であり、相談時間に応じた費用が発生する。診療情報提供書はセカンドオピニオン時にも必要で、発行費用が生じるとの説明があった。セカンドオピニオン推奨については、セカンドオピニオンと転院は同義ではないため、患者さんの納得を得た上でセカンドオピニオンを受けてもらうことが重要だと述べた。病状等説明時の配慮については、患者会の田盛副会長から、高齢者の場合は説明内容を記憶できないと要望した理由が述べられ、紙に書いて渡してほしいと再度訴えた。これを受け上盛看護部長は、現在でも説明の際はわかりやすく伝えるため紙に書いて説明をしている。今後ますます患者さんへの配慮を強化したいと述べた。

(10) 渡航費助成制度申請状況について【協議・要望事項(1)にて進捗報告があった事項】

・石垣市市民保健部 健康福祉センター 所長 前底 正之

・八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 宮國 恵慈

石垣市市民保健部健康福祉センター前底所長から、現在、がんと難病を対象としている渡航費助成について、不妊治療も認めてほしいという声があるとの報告があった。患者会の宮國氏は、患者会に入会するまで渡航費助成制度を知らなかった、広く市民に広報してほしいと発言した。これに対し石垣市市民保健部健康福祉センター前底所長は、がんを周囲に知られたくないという人は多く、ハガキ等で個人に知らせることが難しいと説明した。上盛看護部長からは、病院が直接情報提供することは可能であるが、がんの告知を患者本人に行っていないケースもあり、誰に情報を伝えるか選別することは難しいと述べた。こうした意見を受け、石垣市市民保健部健康福祉センター前底所長は、本件に関するポスター等をセンターが作成し、各診療所や病院に貼り出し周知をすることで、患者や家族本人が情報を入手できるようにする、とした。

4. 協議事項・要望事項

(1) 平成 27 年度宮古医療圏がん医療連携協議会 振り返り<15 分>【資料 5】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

平成 27 年度を中心に、これまでに上がった協議事項、要望事項を 1 項目ずつ整理し、来年度以降の取り扱いについて協議した。これにより全 33 項目中、24 項目は協議を終了、9 項目は次年度も継続して協議となった。

<協議結果>

【改善等が見られ、協議を終了する議題】

- ・患者会の定例会に、医療関係者も同席していただき適宜アドバイスや相談等を行ってほしい。
- ・患者会の定例会に、がんに関する講話や勉強会を年に数回病院に勤務する医療関係者に行ってほしい。
- ・医療関係者・行政・患者会が交流できる機会を設け、顔の見える関係を築きたい。
- ・待合室に、患者向けのがん関連図書コーナーを設置してほしい。
- ・患者さんへ「やいまゆんたく会」という患者会があることを医療者から紹介してほしい。
- ・がん患者やその家族が周りを気にすることなく語り合える場所の設置を行ってほしい。
- ・ピアサポートの相談室を確保し、無償で利用できるようにしてほしい。
- ・現八重山病院内の地域連携室が分かりにくいので道案内を工夫して行って欲しい。
- ・病院内で患者会が定例会等で活動できる場所を無償で提供してほしい。
- ・診察室内の医師と患者の声が漏れにくいレイアウトに変更してほしい（中待合室を無くす。カーテンでの仕切りを無くす等）
- ・相談室は男性用・女性用の部屋を設けるようにしてほしい（入口は一つが好ましい。室内にはウイッグやパット等見本を展示する）
- ・八重山病院にて各がん種の一般市民講座を行ってほしい。
- ・八重山病院にて、緩和ケア、疼痛緩和ケア、化学療法、放射線治療、乳がん看護の認定看護師の患者向けの話を知りたい。開催時には患者会にも声かけをしてほしい。
- ・八重山病院における緩和ケアやがん治療に関する現状報告会・勉強会などを開催して欲しい。
- ・手話通訳士を配置してほしい。
- ・自宅療養しているがん患者のケアを月 1 回行えるように訪問看護師を配置してほしい。
- ・地域連携室にがん患者を支援する専属の事務員を配置して欲しい。
- ・がんの部位別専門外科外来設置（特に口腔外科）と専門医師の配置をお願いしたい。
- ・血液内科専門外来を設置してほしい。
- ・脳神経外科外来を充実してほしい（医師確保等を含め）。
- ・勤務医師の約 3 割が一年で転勤するようなので、短期間で入れ替わることがないように最低でも 3 年を目途に勤務期間を設定してほしい。
- ・医療費の助成等、現在市役所等で行う手続きを病院で行いたい。
- ・病院内の自動販売機を患者会で保有できるようにしてほしい（売り上げ利益等を活動資金に充て

たいため)

- ・受診や支払いの待ち時間短縮のための施策を検討してほしい。(支払い ATM 機の増設など)

【来年度も継続協議が必要な議題】

- ・がんと共に他の疾患を抱えた患者のための医療連携について、患者・かかりつけ医・主治医の三者が、必要に応じて意見交換できる場が必要ではないか。同協議会に八重山地区医師会の医師を参加させていただきたい。
- ・八重山病院の勤務医師の専門分野等について、市民へ広報で紹介してほしい。
- ・新病院開設後は、地元で充実したがん治療が受けられるよう部位別の診療科と専門医師を配置してほしい。
- ・島外で手術・治療を受けた患者の退院後の定期検査、治療（抗がん剤・放射線）を地元で受診できる体制を確立して欲しい。
- ・患者へ病状を伝える際には、患者の気持ちに配慮してほしい。患者の気持ちに寄り添ってほしい。また、できるだけ説明した内容を紙面に記載して渡してほしい。
- ・患者は医師に対して、セカンドオピニオンの受診を言い出しにくい為、医師側から積極的に制度の活用を推進してほしい。
- ・病院としてセカンドオピニオンをとることを積極的に推奨してほしい。
- ・（渡航費助成制度申請状況についての報告を受け）助成制度の対象拡大を検討してほしい。
- ・（沖縄県ホテル旅館組合のボランティア事業ではあるが）宿泊支援制度はホテルの稼働率上昇により予約が取りにくいいため、病院周辺に宿泊施設がほしい。

(2) 平成 27 年度宮古医療圏がん医療連携協議会 実施状況 (案) 【資料 6】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

(1) での振り返りを踏まえ、平成 27 年度の実施状況 (案) 【として本年度の成果・課題・次年度に向けた取り組みについて、分類別に下表のように整理した。時間の関係上、各項目の内容確認は個別に行うこととし、次年度に向けた取り組みに関する協議は次回に持ち越しとなった。

分類項目	H27 年度の成果	課題	H28 年度に向けた取り組み(案)
連携	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会を定期開催し、ステークホルダーが互いの現状を報告することで相互理解と連携体制が強化され、相手の立場を尊重して議論を行うことが可能になった。 ○患者会主催行事への医療者の参加について、必要に応じて協力してもらうことの承認が得られた。 ○医療連携の観点から、八重山地区医師会役員の本協議会参加要請が審議され、承認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ○開催月が議会開催と重なると、行政からの参加が難しい。 ○八重山地区医師会役員の参加について、本協議会開催が一般診療の時間内の場合、参加困難な可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本協議会の継続的な取り組みが、離島におけるがん医療の改善、質の向上につながる可能性があるため、今後も引き続き協議会を開催する。 ○開催月を考慮して行政が参加しやすい体制づくりをする。 ○八重山地区医師会役員への参加に向け、事務局は調整をはかる。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ○患者会のチラシやポスターを、院内に配布・設置することが了承された。 ○診療科ならびに医師紹介について、広報の実現に向けて取り組むことが了承された。 	<ul style="list-style-type: none"> ○がん関連図書の設置が院内に散在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○診療科ならびに医師紹介について、広報を行う。 ○新病院開設時に図書コーナーを集約する。
施設	<ul style="list-style-type: none"> ○患者会からの要望を受け、新病院に「がんサロン (仮称)」の実施が可能な共有スペースを設けることが決定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「がんサロン (仮称)」の組織運営ならびにピアサポート活動そのものについて、患者会から不安の声が聞かれた。 ○診察室内の医師と患者の声が外に漏れやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「がんサロン (仮称)」実施に向け、病院・患者会の双方が連携して取り組む。 ○診察室の環境は、新病院開設時に対応する。
講習会 勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ○勉強会等の開催実現に向け、病院・患者会双方の連絡窓口を明確にし、連携体制を構築した。 		

分類項目	H27 年度の成果	課題	H28 年度に向けた取り組み(案)
人員配置	○がんの部位別専門外来設置と専門医師の配置について、積極的に意見を交わした。	○短期赴任で医師の入れ替わりが頻繁である。	○新病院開設時に再度審議する。
その他	○八重山病院のがん診療体制が強化され、島内で可能な手術や治療について、院長ならびに腫瘍内科医である瀬尾医師より、患者会に向けて直接説明があった。 ○患者に対する医師のコミュニケーションについて、おもいやりに配慮した指導をしていきたいと院長から発言があった。 ○渡航費助成制度について、積極的に意見を交わした。 ○ファミリーハウス(病院周辺の宿泊施設)について、積極的に意見を交わした。	○渡航費助成の申請をする患者のなかには、島内で検査・治療が可能な場合があることを知らないケースが見受けられる。 ○周囲にがんが知られるのを恐れて、あえて島外で治療する現状がある。 ○ファミリーハウスの運営には費用やマンパワーがかかる。 ○ファミリーハウスの宿泊患者数が少ない場合、費用対効果が低い。 ○宿泊支援制度の利用実績は 1 組 2 名にとどまっており利用が少ない。	○地域住民に対し、八重山医療圏のがん医療の現状を正確に伝え、島内で対応可能なケースについては、八重山病院等で積極的に治療してもらう取り組みを行う。 ○がんを隠さない意識改革、早期発見・早期治療のがん教育に取り組む。 ○渡航費ならびに宿泊費支援は継続検討が必要であり、両者を分けずに議論する。

(3) 平成 28 年度がん患者支援事業に対する要望について

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
時間の関係上、要望や意見については個別に行うこととなった。

5. 閉会のご挨拶 <5 分>

・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝先生

第 4 回となる本協議会も、活発に意見を交わして白熱した討論となった。2 人に 1 人はがんで亡くなる時代であるが、患者さんの立場に立たないと分からないことも多く、今後も引き続き、本協議会に参加するステークホルダーが一丸となり、がん対策に取り組んでいきたいとの挨拶があった。また発刊が決まった「がん患者さんのための療養場所ガイド」について、制作に対し感謝の言葉が述べられた。